

福島県産業界、新たな産業基盤構築へ加速

新産業の育成に重点

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から15年という節目を迎えた福島県。国と連携した産業基盤の整備が進む中、地域の未来を担うモノづくり企業が力強い歩みを進めている。今回の「福島県産業振興特集」では、内堀雅雄知事によるメッセージ、4月に開催した福島産業人クラブの経済講演会の内容、次代を切り拓く福島県内企業の動向、導入が進む再生可能エネルギーの取り組みを紹介する。

医工連携、臨床ニーズ対応

福島県は2026年度予算で、医療機器分野では特に臨床医工連携や航空宇宙といった床ニーズの発掘や地産地消を成長産業の育成に力を入れ、後押しする。震災・原発事故



若手医師のトレーニングを通じ、医療機器開発・改良のニーズを発掘する

復興・連携・共創の輪広げ全力で挑戦

東日本大震災と原発事故から15年余りが経過する中、国内外からの温かい御支援と県民の皆さんの懸命な御努力により、福島の復興は着実に前進しています。



福島県知事 内堀 雅雄氏

メッセージ

一方で、今なお多くの方々が避難生活を送っており、内外からの温かい御支援と県民の皆さんの懸命な御努力により、福島の復興は着実に前進しています。

成長産業の集積と育成を推進

さらに、国が進める地域未来戦略を踏まえ、「ふくしま地域産業成長プラン」を策定し、本県が強いとする医療機器、航空宇宙、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、輸送用機械の5分野において、中小企業の技術力向上や新たな製法開発、産業人材の育成などを支援し、さらなる成長産業の集積と育成を進めていきます。

医師トレーニングに着目／航空宇宙 支援策を拡充



福島県郡山市で昨年開いた展示会「ロボット・航空宇宙フェスタふくしま2025」

さらに、AIが診断したおすめの日本酒に合う食品や酒器をはじめとする「福島県産品」を提唱する「福島県産品PR」を拡充し、さらなる成長産業の集積と育成を進めていきます。

コンテンツ、ECサイトの運営に活用することで、デジタルプロモーションの強化を図る。

長引く物価高や人手不足など厳しい経営環境が続く中で、県内中小企業の稼働力の強化も支援する。賃上げ対策として、生産性向上に向けた専門派遣や、省力化・効率化につながる機器・設備・ITツールの導入経費の一部を補助するほか、「稼働力UPセミナー」も1月に開催を予定する。また、販路拡大支援では、福島県産業振興センターを通じて県内中小企業が国内外の展示会への出展や商談を行う際の経費を一部補助するほか、首都圏での発注企業の開拓なども後押しする。賃上げ対策と販路拡大支援を両輪として県内経済の好循環の実現につなげる。

県は新産業の育成と既存企業の基盤強化に向けた施策を展開することで、震災からの産業復興を確かなものにし、県内経済の持続的な成長を目指す。

排水と見直す！

加藤式 **BAR-SCREEN** 新BSシリーズ

流水除塵機 目開 (0.5, 1.0, 2.0, 5.0, 10~50mm) まで

- 一般産業排水処理の一次処理
- 食品加工工場 ●製紙・製糸工場
- ホテル、工場、病院等の厨房排水
- 合併浄化槽 (コミプラ)
- 終末下水処理・中継ポンプ場
- その他

●目づまりゼロ ●メンテナンスフリー ●簡単、無騒音 ●省エネ、オールアルミ

環境対策に

傾斜式ウェッジワイヤースクリーン **KSBスクリーン**

目開 0.15, 0.3, 0.5, 0.7, 1.0, 1.5, 2.0mm まで

画期的なスクリーン登場

洗浄ブラシが1本、2本、3本

独自の回転ブラシ構造の開発により、従来の傾斜式ウェッジワイヤースクリーンの概念を超えた画期的な高性能を実現しました。

http://www.katex.jp

KATEX 加藤鉄工株式会社

KATO IRON CO., LTD. 〒960-8201 福島県福島市岡島字作田入1-2 福島工業団地内 TEL 024-534-2111(代) FAX 024-533-7155 E-mail katex@katex.jp 認証取得 ISO14001(2015)

令和8年 **8月27日(木)** 15:00~17:30(受付14:30~)

会場 **帝国ホテル東京** 本館2階 孔雀東の間 東京都千代田区千代田1-1-1

参加費無料

プログラム

- 15:00~①知事と立地企業によるトークセッション
- 15:40~②参加市町村長によるショートプレゼンテーション
- 16:30~③情報交換会
- 17:30 閉会

参加を希望される方は、二次元コードまたはURLからお申し込みください。事前申込が必要です。【申込期限:令和8年7月24日(金)まで】

<https://www.fukushima-seminar.jp>

主催 **福島県・福島県企業誘致推進協議会** 投資@pref.fukushima.lg.jp

福島県 150年

企業立地セミナー

参加費無料

浜通り等地域は、全国トップクラスの優遇制度をご用意しています！

企業立地 個別現地見学

私たちが、産業団地を案内します！

企業立地個別現地見学のお申込はこちら

<http://e-ve.event-form.jp/event/101844/fj5VQ36M0i>

公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 産業集積部企業立地支援課 kigyou-ritti@fpo.or.jp

福島イノベーション機構

福島産業人クラブ 経済講演会

創造的復興の核に 最先端の研究を浜通りから発信



避難指示等区域の変化については、11年4月22日時点で福島県の面積の約12%に避難指示などが発出されていましたが、24年12月27日時点で約2・2%まで減少しています。避難地域12市町村の居住状況に関しては、F-REIが立地している浪江町で居住率は15・3%、原発に近い大熊町は8・7%、双葉町が3・3%となっており、避難指示等の解除が進んでいる

また、東京電力福島第一原子力発電所から80km圏内における空間線量率の推移については、航空機モニタリングによる地表面から1mの高さの空間線量率の平均は、震災当時の11年11月時点と比べ、21年10月時点で約80%減少しています。

F-REI理事長の山崎氏は、本日はこうした貴重な機会を頂戴して感謝申し上げます。4年前まで金沢大学の学長を8年間務めた後、2023年4月にF-REIの初代理事長として着任し、丸3年が経過しました。本日はこれまでの進捗や最新の情報についてお話できればと思っています。

福島産業人クラブ（加藤利夫会長代行）加藤鉄太会長は4月28日、福島市内で経済講演会を開いた。福島国際研究教育機構（F-REI）エグゼクティブ、福島県浪江町）理事長の山崎光悦氏が「浜通りから始めるF-REIの挑戦 未来を拓く科学技術力・産業競争力の拠点を目標として」をテーマに、約50人の参加者に語りかけた。ここではその模様を紹介する。

福島国際研究教育機構理事長 山崎 光悦氏

ものの、まだまだ手を挙げてみんなが戻ってくるような状況にはなっていないのが現状です。

そこで登場したのが我々F-REIです。新産業創出等研究開発基本計画では、創造的復興に向け、移住・定住の促進とF-REIの設立が掲げられています。F-REIは、研究開発、産業化、人材育成、司令塔という四つの機能を有しています。また、研究開発活動の推進と成果を基に、まずは浜通り、福島県の産業を興し寄り添うとともに、ひいては東北全体の復興に資するように取り組んでまいります。

23年4月に当時の岸田文雄首相や渡辺博道復興大臣らに出席いただき、浪江町ふれあい福祉センターにて開所式を行いました。現在は、「ふれあいセンターなみえ」内に本部を設置しておりますが、今後、JR浪江駅の西側の約16・9haのエリアに本部施設や研究実験施設などを設置する予定です。本部施設は28年度、それ以外の施設は30年度の完成を見込んでいます。最終的には、F-REIを訪れる人々や研究者同士の交流の機会を創出する空間とするを目標としています。

また、F-REIの4機能の一つ目は、研究開発です。この後で説明する「ロボット」「農林水産業」「エネルギー」「放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用」「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」の五つの分野を中心に研究活動を進めております。その研究成果をもつて産業化し、地域に産業を取り戻すとともに



参加者は山崎理事長の講演に熱心に耳を傾けた

新たな産業の創出を図っていきます。さらに、人材育成では長いスパンで地域の若い人や若い産業人を育てていくことが重要になります。浜通りの既存の施設等の取り組みに横串を刺す司令塔としての機能も果たしていきます。

続いて、F-REIの五つの研究テーマについてご説明します。まずはロボット分野ですが、浜通り地域に位置する我々としては、福島第一原発の廃炉が課題となる中で、耐放射線性や耐久性などを備え、過酷環境でも活躍するロボット・ドローンを開発していくことと取り組んでいます。このほかにも災害対応や森林作業といった領域への応用が期待されています。ロボット分野の4ユニットのうち、遠隔操作研究ユニットでは、実際に触る感覚（力触覚）を伝送する技術を活用し、高温・高湿・高線量・真空などが立ち立ちな過酷環境において、より高精度で自律的に動作する遠隔操作ロボットを開発しています。こうしたロボットを廃炉作業にも生かすことが目標です。また、25年には福島ロボットテストフィールドなどを会場として「ワールド・ロボット・サミット（WRS）2025 過酷環境F-REIチャレンジャー」を開催しました。

3日間の日程で日本を含む8カ国・地域から34チームが参加し、「過酷環境ドローンチャレンジャー（HEDC）」「プラント災害チャレンジャー」「シミュレーション災害チャレンジャー」「標準性能評価ドローンチャレンジャー（STEM）」の4種目ロボット・ドローンを用いた災害対応や調査・点検などを競いました。世界最先

研究開発・産業化・人材育成・司令塔の4機能体制



F-REIの本施設の整備イメージ（イメージパースであり今後の設計で変更となる可能性がある）

端の技術が集まってくるこうした機会を生かし、我々としてもロボット・ドローン技術を磨いていきたいと考えています。次に農林水産業ですが、農業については農業機械の完全自動化やロボット化、スマート化を通じた効率化に力を入れていきます。また、農地の土壌に注目し、土壌環境と食物栄養の相互の影響を多面的に探究することで、作物の収量拡大などを目標としています。浜通り地域における除染後の農地の土壌環境の回復に向けても取り組んでいます。

エネルギーについては、ネガティブエミッションの実現や水素などのエネルギーの活用に関する研究を推進しています。地域の再生可能エネルギーを有効活用し、水素の製造・貯蔵・利用を可能とする一小型小型システムの開発を進めています。このほか、浜通り地域のバイオマス資源を活用したネガティブエミッション技術の実証研究や、大型藻類を大量育成して食用利用のほか二酸化炭素（CO₂）を吸収し海底に蓄積するブルーカーボンに関する研究開発を行っています。

放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用については、医療分野では放射性同位元素を用いたがんなどの診断・治療の研究開発を行っています。医療だけでなく、農業分野における農作物の高付加価値化や生産性向上にもつながるよう技術開発を進めているところです。原子力災害に関するデータや知見の集積・発信では、実際の現場での放射線

講演に続く質疑応答では、会場から質問が寄せられ、山崎理事長が丁寧な回答を。ここではその内容を紹介します。Q 研究開発にあたって福島県内の製造業と連携していく際、企業側からのようなアプローチを期待していますか。また、F-REIとして今後、県内企業とどのように連携を図っていくお考えですか。A 設立から4年目で少しずつ成果が見え始めてきました。中でも農林水産業は早いと感じます。研究成果は、まずは浜通り、福島県で使っていただくというのが基本になります。実証は県内で行い、企業の皆さんに対して実証や研究の募集を行っています。我々はモノづくりが基本です。地域企業の加工や組み立てに力を入れており、研究開発や検証の段階から企業と一緒に技術を磨いていきたいと思っています。皆さんの現実の課題の解決につながるような社会実装を目指していくのがF-REIの責務であると考えています。

量的データを蓄積することにも、地域の活性化やコミュニティの合意形成を推進することで、災害に強く人々が共生できるまちづくりに貢献していきます。ご紹介した五つの研究分野は、それぞれ単独ではなく、例えばロボット技術は農業にも活用できるように、互いに連携を持っており、こうした連携を行えることも強みです。F-REIの4機能の二つ目である産業化に向けた取り組みとしては、福島県内外の企業などを巻き込んだ連携体制の構築に向けた産官ネットワーク・セミナーを24年度に東邦銀行様と共同で開催したほか、市町村や住民、企業・団体などとの対話の場として座談会を開催しています。座談会については、23年度は浜通り地域などの15市町村で、24年度は研究テーマ別に浜通り地域で2回、中通り・会津地方で4回実施しました。

人材育成では、福島県内外の大学や高等専門学校の学生を対象に、F-REIの幹部が研究者としてのやりがいなどを伝えるトップセミナーを23年度に16回、24年度は7回開催しました。県内の高校向けにF-REIの研究者による出前授業も実施しています。小学生が科学技術に触れる機会を提供するため、科学実験教室も開催しています。このほか、将来の研究者を目指す高校・大学生を対象に、F-REIの研究ユニットで研究体験を行う機会を提供するサマースクールを25年度に実施しました。24年度には東北大学と

連携協力に関する基本合意書（MOU）を締結し、この基本合意書に沿って、東北大学大学院医学系研究科と「放射線環境医学連携講座」の設置に関する協定を締結するなど連携大学院制度を活用した人材育成にも取り組んでいます。こうした取り組みを通じ、F-REIは教育の部分にも力を入れていきます。司令塔としての取り組みについては、7府県庁、福島県、浜通り地域等15市町村、大学、研究機関などの35の構成員が参画する協議会の組織・運営を行っています。また、自治体や関係機関との、研究開発・人材育成等における連携や双方の資源を有効活用した協働活動などの連携協力に関する基本合意書等は、23年度に9件、24年度は国内外で10件締結しました。

最終目標として、私は浜通り地域が「常盤カリフォルニア」と呼ばれるような地域になればと思っています。浜通り地域は温暖で雪が少ない気候です。人々が住みたいと憧れる地域になつていくことを期待しています。ご清聴ありがとうございました。

プラスチック製品の一拠点一貫生産

■金型設計・金型製作
■成形量産
■組立

NJM 株式会社 北日本金型工業
NORTH JAPAN MOULD INDUSTRY CO.,LTD.
〒969-3461 福島県会津若松市河東町浅山字仲田40番地1
TEL(0242)75-4731 FAX(0242)75-3907 Mail:info@njmould.co.jp

ものづくりを極めるKANEKO。■

心技

医療・航空・光学・研究開発 各種精密加工
株式会社 金子製作所
さいたま市岩槻区古ヶ場1丁目3番地13 TEL：048-794-8111 www.t-kaneko.co.jp

福島産業人クラブ

新会員募集中!!

産業人クラブは経営者の意志決定に欠くことのできない
情報とチャンスをもたらします。

お申し込み・お問い合わせ先

福島産業人クラブ 日刊工業新聞社 福島支局内
〒960-8068 福島市太田町8-8-203 TEL.024(573)6105 FAX.024(573)6106

自動はんだ付け装置 スマートディップII

多彩な機種条件で不良を改善！

噴流槽からの入替で
はんだ酸化物を最大80%削減！

スキルレスな装置で属人化を防止！
未経験者でも操作可能！

SHINKA.
FAシンカテクノロジー株式会社
福島県福島市方木田字前白家9-11 TEL / 024-502-1188 WEB SITE

スマートディップII FXM-1Z

自動はんだ付け装置の開発販売・サービス／セル生産装置・効率化治工具の開発設計・販売・サービス／実装設備の代理店販売

グローバル・ニッチNo.1を
創造し続ける企業グループ

Nittobo

福島事業センター
〒960-8581 福島市郷野目字東1 TEL 024-546-3131
福島事業センター 第二工場
〒960-2154 福島市佐倉下字一本杉20 TEL 024-593-1231
富久山事業センター
〒963-8061 郡山市富久山町福原字塩島1 TEL 024-932-6011

KITASHIBA

福島から、
エネルギーの未来へつなぐ。

北芝電機株式会社
https://www.kitashiba.co.jp
本社・工場 〒960-1292 福島県福島市松川町字天王原9

次代を切り拓く福島県内企業

加藤鉄工

加藤鉄工（福島市、加藤孝之社長）は、省力化機械や水処理関連機器をはじめとした産業機械の開発・設計・製造・販売を一貫して手がける。

下水処理や一般産業排水処理で目詰まりを起こさず浮遊固形物を除去できる流水除塵機「加藤式自動バースクリーン」が主力。1971年に商品化し、自治体の下水処理場や食品加工工場、製紙工場、皇居のお堀など幅広い採用実績を持つ。

同社はこれまで省資源を重視したモノづくりを展開してきたが、今後もこの姿勢を貫き、環境保全へのさ



加藤鉄工が展開する水処理関連機器

省資源重視のモノづくり貫く

加藤鉄工は、省力化機械や水処理関連機器をはじめとした産業機械の開発・設計・製造・販売を一貫して手がける。

下水処理や一般産業排水処理で目詰まりを起こさず浮遊固形物を除去できる流水除塵機「加藤式自動バースクリーン」が主力。1971年に商品化し、自治体の下水処理場や食品加工工場、製紙工場、皇居のお堀など幅広い採用実績を持つ。

同社はこれまで省資源を重視したモノづくりを展開してきたが、今後もこの姿勢を貫き、環境保全へのさ

北日本金型工業

北日本金型工業（福島県会津若松市、小椋庄太社長）は、本社敷地内に樹脂成形工場として2棟目の「クリーンルーム成形工場」を現在建設中。12月の完成予定で、需要の高いディスプレイ（使い捨て）の医療・衛生用品や光学部品、半導体関連部品といった高付加価値品の成形・組立工場として機能する。

国内の金型メーカーが減少する中、同社の大きな特徴は、ついでに樹脂製品の金型と成形の両方に対応できること。「問題解決につなげる」ことから顧客の技術者に喜ばれている」と小椋社長は言う。



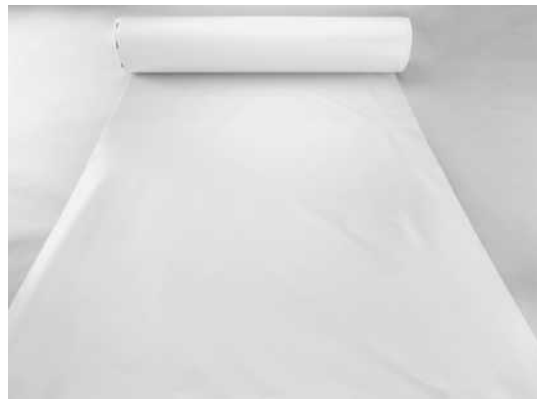
北日本金型工業の現在の成形工場

日東紡

日東紡は電子材料やメタリカルな5事業を展開する。主力となる電子材料事業では、電子材料用途のガラス・プラスチックを開発・製造・販売し、特に低誘電・低熱膨張といった特性を持つ独自組成のスペシヤルガラスは高い評価とシェアを誇る。

現在は、近年のAI（人工知能）サーバー市場の盛り上がりに伴うスペシヤルガラスへの旺盛な需要に対応するため、生産能力の拡充に注力。150億円を投じて福島市内でガラスクロスを製造する新工場棟の建設を進めており、2027年1〜3月の稼働開始を目標としている。これにより100人規模の雇用創出を見込んでおり、地域の重要課題である人口流出の防止にも貢献していく考えだ。

また、23年に設立した新規事業創出センターでは、ヒトとコンピュータの両方、動物の健康・福祉の健康度をセルフチェックできる製品・サービスを販売する。例えば猫の健康・福祉の健康度をセルフチェックできる製品・サービスを販売する。例えば猫の健康・福祉の健康度をセルフチェックできる製品・サービスを販売する。



スペシヤルガラスの一つである「ガラスクロス」

金子製作所

金子製作所（さいたま市岩槻区、金子晴房社長）は、医療機器や航空機向けの精密切削加工を強みとする。内視鏡部品の加工は50年以上、エンジン部品などを製造する航空宇宙関連も40年以上の実績がある。11月にドイツで開かれる医療機器の加工技術・部品材料展「COMPAMED2026」への出展も予定している。

福島県内では2011年にいわき工場を開設。さらに広野町の「広野駅側産業団地」に医療機器部品の新工場を建設する計画で、4月には同日と連携協力に関する基本協定書を締結し



金子製作所の工場内

F Aシンカテクノロジー

F Aシンカテクノロジー（福島市、桑嶋希社長）は、自動ハンダ付け装置・実装関連設備の設計・製造、販売を手がける。主力製品「スマートディップシリーズ」は、独自技術により高品質なハンダ付けと低ランニングコストを両立している。

挿入実装のハンダ付け工程では、ハンダをインペラなどで噴流させる噴流槽が一般的。一方、同社はハンダを噴流させない静止槽に、独自技術の攪拌機構と特許技術のプリント基板の水平だし機構を搭載した装置を開発した。攪拌機構によりハンダ付け品質を向上



F Aシンカテクノロジーの設備

マコト精機

マコト精機（福島県会津若松市、古川信吾社長）は、金属のロール材や切り板に対して連続的に曲げ加工を行い、シャッターやロッカー、ガードレールのような金属製品を製造する冷間ロール成形ラインの国内トップメーカー。2026年で創業60年を迎え、顧客の業種も建材から電気器具、自動車部品、農業設備、スチール家具と幅広い。

特に同社の場合、回転工具のロールから金型、機械装置、電気制御まで一貫体制で対応できるのが強み。「ロールは作り込みが必要



マコト精機の工場

冷間ロール成形 一貫体制で対応

広野町に新工場建設 28年完成

金子製作所（さいたま市岩槻区、金子晴房社長）は、医療機器や航空機向けの精密切削加工を強みとする。内視鏡部品の加工は50年以上、エンジン部品などを製造する航空宇宙関連も40年以上の実績がある。11月にドイツで開かれる医療機器の加工技術・部品材料展「COMPAMED2026」への出展も予定している。

福島県内では2011年にいわき工場を開設。さらに広野町の「広野駅側産業団地」に医療機器部品の新工場を建設する計画で、4月には同日と連携協力に関する基本協定書を締結し



金子製作所の工場内

配電盤・制御盤の製造販売・精密板金加工・金属塗装

高橋電機株式会社

代表取締役社長 高橋 正実

〒969-1403 福島県二本松市洪川字十文字1-11

TEL 0243-53-2221

橋梁・水管橋・水門・水圧鉄管・除塵機・クレーン・調査設計

東開工業株式会社

代表取締役 高野 次郎

本社・工場 福島県福島市佐倉下字観音堂11番地の3 営業所 仙台

TEL 024-593-4000代 FAX 024-593-4042 https://tokai-fukushima.jp

鉄道車両・荷役機械・産業機械・橋梁・水門・水管橋

協三工業株式会社

代表取締役社長 加藤 守

〒960-2154福島市佐倉下字光寿院前1-1 TEL024-593-4901 FAX024-593-4905

http://www.kyosankogyo.co.jp

精密溶接・精密機械加工・タングステンヒーターチップ

有限会社 福島熔材工業所

代表取締役社長 湯谷 修一

〒960-2154 福島市佐倉下字芥内16-7

TEL 024-593-5961 FAX 024-593-5962 URL:https://fky.jp

圧油レス電動化水車の設計製造・圧油レス制圧機

東北中川工業株式会社

〒960-8075 福島県福島市下野寺字北田8-7

TEL 024-535-2155 FAX 024-531-6196

金属プレス加工（絞り加工）・金型設計製作・試作加工

有限会社 吾妻プレス工業

代表取締役社長 渡辺 大樹

〒969-1511 福島県二本松市下川崎字篠根坂山20

TEL 0243-54-2301 FAX 0243-54-2303

E-mail: azumap@olive.ocn.ne.jp URL: http://azumap.info/

日本一きれいなステンレス工場

株式会社 羽田工業所

代表取締役社長 黒田 容

〒963-0725 郡山市田村町金屋字下夕川原167-14 TEL.024-944-1238

電子機器部品 半導体モジュール開発・試作 量産組み立て

株式会社国見メディアデバイス

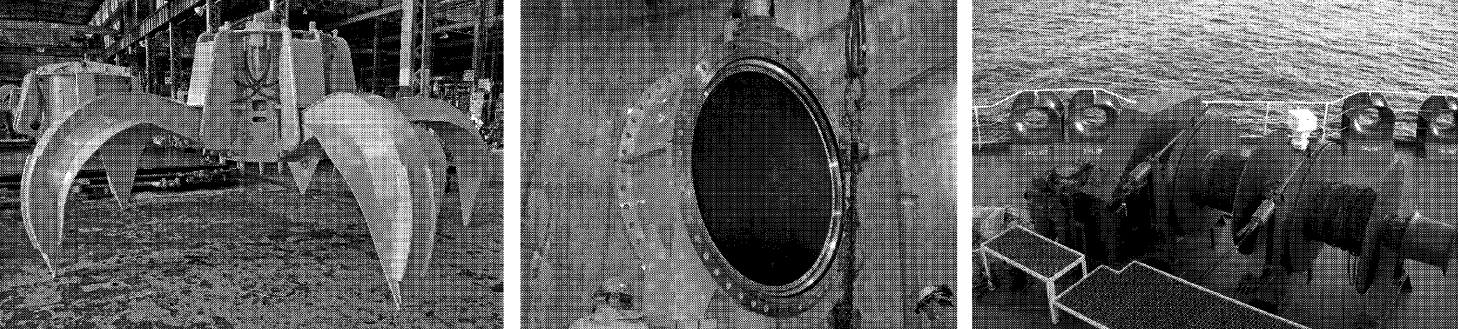
代表取締役 岡村 直之

住所：福島県伊達郡国見町大字山崎字北町田3

TEL: 024-529-1522 FAX: 024-529-1533

https://www.kunimi-media.jp/

1920年からの想いをこれからも社会に貢献する



清掃工場その他各種
グラブバケット事業

水力発電機器事業

船用機械サービス事業

株式会社 福島製作所

〒960-8054 福島県福島市三河北町9番80号

TEL024-534-3146 FAX024-533-8318

https://www.fukusei.co.jp/

会津魂で世界へ羽ばたく。

技術と信頼と実績でお客様の悩みを「いいね!」に変えていきます。

冷間ロール成形機のトップメーカー **MAKOTO**

成形ロール・成形機の他にもラインに関する設備も全て、設計、製作致します。

建材、自動車部品、スチール家具、電気部品、一般金属加工ラインの他にもお客様の「人材不足」「生産効率向上」「製品精度UP」等の悩みを「いいね!」に変えていきます。

お客様の予算に合わせて低価格、高品質の簡易タイプ成形機から大型ラインまで取り扱っておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

株式会社 マコト精機

本社 福島県会津若松市河東町広田字塩新237番地

TEL 0242(75)2828 FAX 0242(75)3234 担当 古川、小林

URL: https://www.makotoseiki.co.jp E-mail: mk@makotoseiki.co.jp

